

キャラクター名
深見 比紗(ふかみ ひさ)

プレイヤー名

シンドローム	ブラックドッグ		ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	高校生
	ソラリス					
オプション			年齢	16	性別	女
覚醒	素体	衝動	闘争	初期侵食率	41	%
出自	母親不在	経験	実験体	邂逅	秘密	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	38
肉体	2	1	0			3	行動値	4
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	4
精神	2	0	0			2	戦闘移動	9
社会	3	0	0			3	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	4		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ヴィブロウィップ	白兵	3r+2	-	10		イニシアチブで装備/マイナー使用で攻撃力+5

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ:噂好きの友人	
コネ:UGN幹部	
ダーマルプレート	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイムス	消費
機械化兵	P	N		
父親	P 尽力	N 偏愛		
友人たち	P 友情	N 隔意		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6 残り財産P: 4

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コネトレイト:ブラックドッグ	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: C値-LV(下限値7)								
ハードワイヤード	5	基4	常時	至近	自身	自動	-	
効果: ヴィブロウィップ/ダーマルプレート×2取得								
ハイマニューバー	3	4	メジャー	武器	-	対決	リミット	
効果: 達成値+[LV×5]/ブラックドッグ武器のみ								
アタックプログラム	5	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果: 達成値+[LV×2]								
アドレナリン	3	3	メ/リ	-	-	-	-	
効果: ダイス+[LV+1]個								
オーバードーズ	1	4	メジャー	-	-	-	100↑	
効果: 組み合わせたエフェクトのLV+2								
セキュリティカット	★	1	メジャー	至近	効果参照	自動	-	
効果: 電子的に施錠したロックを解除する								
電子使い	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果: 電子機器なしで電磁記録体を扱える								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

物心ついたときから母親はおらず、UGNの研究者である父親は研究にしか興味がなく一切構ってもらえなかった。そんな彼女が父に「愛してもらうために唯一見つけた方法は「父の被験体になること」だった。父親は喜んでその申し出を受け入れた。はじめて自分にむけて笑ってくれた。彼女にとってはそれだけで十分だった。そうして彼女は被験体となり、機械の身体と強大な力を持つ兵士となった。機械の身体で人間らしい生活ができるのか、という経過観察のために任務以外の時間は高校生として日常生活を送っている。父親と話すのはエネルギー補給とメンテナンスの際のみ。それでも、被験体としてでも愛してくれればそれでいいのだとずっと自分に言い聞かせている。人間としての機構は脳以外ほぼ残っており、電力で動く機械を脳に接続させ、ソラリスの能力で人間が生成できるホルモンや脳内物質を無理やり生成させることで人間らしい動きができていた状態。食事のふりはできるが食べたものをエネルギーに換える機構がないため食事の必要はない。高校でできた仲のいい友達も何人かいる。しかし本当の自分を知るものはおらず、ずっと彼女らを騙し続けているのだ、ということに罪悪感を抱いている。

「ねえ、お父さん」
「どうしたんだ、比紗」
「今日、何の日か覚えてる？」
「…定期メンテナンスは2日後だし、特別な検査の予定もない。何かあるのか」
「…うん、何でもない、私の勘違いだったみたい」
「記憶系統に不具合の可能性あり、か、次回のメンテナンスで確認しよう」
…ねえ、お父さん。
今日、私の誕生日だったんだよ。
…もう、覚えていないかもしれないけれど。